

国立大学法人熊本大学学長選考・監察会議 学長業績評価 評価書

1. 評価

- | |
|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> 順調である※ ¹ |
| <input type="checkbox"/> おおむね順調である※ ² |
| <input type="checkbox"/> 改善の努力が必要である※ ³ |

2. 意見等

(1) 総括

- ・環境の変化に対しスピード感をもって対応し、優れたリーダーシップの発揮により、新たな機構や学環の設置をはじめ、中期計画を大幅に上回る成果をあげている。
- ・学内外の諸情勢の急速な変化への対応を含め、積極的に施策を講じてきたことは評価すべきと考える。特に、外部資金獲得の努力については、高く評価する。
- ・総合大学として各専門研究分野の特性にも配慮の上、個々のステークホルダーへの情報提供や、各種リスク低減のための内部統制の構築等が必要と考えられる。

(2) 個別分野

① 教育

- ・情報融合学環や工学部半導体デバイス工学課程の新設等、社会の変化をとらえ、必要とされる人材の育成に取り組んでいる。
- ・教育学部において、附属小学校及び中学校への国際クラス設置の計画を推進していることを大いに評価する。

② 研究

- ・東京大学、東北大学、九州大学、国立精華大学(台湾)等の国内外大学の他、JASM、TSMC等の国内外の半導体関連企業との連携を積極的に進め、共同研究費、受託研究費等が大幅に増加した点が評価できる。
- ・今後は、半導体と他分野との連携をさらに推進し、大学全体に波及効果をもたらすことを期待したい。

③ 社会との共創・医療

- ・産学官金との連携や、企業、大学、銀行等との包括的連携協定の締結に尽力し、共同研究及び受託研究の強化を進めた。
- ・くまもとメディカルネットワークの強化、DXを活用した高度・先進医療の提供を推進しており、熊本地域の高度先進医療機関としての責任を果たしている。
- ・大学病院の経営に関する各種指数の悪化が懸念される。

④ 国際化

- ・国際的に活躍できる人材の育成・輩出に向けた英語教育の充実や、研究プログラムの拡充等を図っており、今後もグローバルな人づくりに期待している。
- ・地域の高校・高専等のグローバル教育の浸透・拡大に貢献するため、「熊大グローバル Youth キャンパス事業」を推進し、目標を超える参加者を集めている。
- ・学生の海外派遣の面では、今後の展開を期待する。

⑤ 大学運営

- ・第3期中期目標・中期計画中に大きく削減された各部局の教員人事ポストに関して、各部局等から提出されたアクションプランに基づく評価に応じて返却されている点は、高く評価できる。
- ・運営費交付金の削減が続く中、ネーミングライツやクラウドファンディングなど、運営改善に向けた新たな取り組みに挑戦し続けている点が高く評価できる。
- ・財政的持続性の高い基盤を構築するという点では、改善の余地を残している。

○総合評価

- ・学内外の状況の変化に対し、学長がリーダーシップを発揮し、迅速に対応している。
- ・教育、研究、社会との共創・医療、国際化のいずれの分野についても、学長自らが積極的に動き、新たな事業等に取り組んでいる点が評価できる。
- ・厳しい財政状況の中、外部資金を獲得し、大学運営の改善に努めている。

※1 学長の業績を評価した結果、業務執行状況が順調であること。

※2 学長の業績を評価した結果、向上すべき事項があるものの、総合的に見て業務執行状況が順調であること。

※3 学長の業績を評価した結果、改善すべき事項があり、業務執行状況を改善する努力が必要である。